

評議委員：今田 昇三、岩崎 滋、押田 まり子、河野 祥多、坂田 光司、戸田 京子
 広井 良典、府川 晃久、藤丸 麻紀、松岡 正美

報告書作成者：府川 晃久

評価時期 令和6年12月

1 重点目標の評価

(1) 重点目標1「人と関わる力を育む教育の推進」について

保護者アンケート結果が概ね高評価であり、人と関わる力を育むために幼稚園が取り組んでいる教育活動が充実していたことが伺える。その結果、幼児の成長につながり、保護者の肯定的評価となったと考えられる。

人との関わる中で基本となる「挨拶」について、併設する小学校で重視して取り組んでいる。既に行っていると思うが、幼児についても繰り返し取り組んでほしい。また、幼児が身に付けるために、保護者を含めた身近な大人がよいモデルとなって率先して行うよう啓発をお願いしたい。

(2) 重点目標2「好奇心を引き出し、学びの芽生えを育む教育活動の推進」について

幼稚園側の報告に、園内研究において「自然」をテーマに取り組んだとあり、今ある環境を生かしたり改善したりしていることが伺える。

保護者の評価も高いことから、教員が様々な工夫や努力をして教育活動を進めていること、それが幼児の成長につながっていることが伺える。

(3) 重点目標3「健康な心と体を育む教育活動の推進」について

健康な心と体を育むために、幼稚園が意図的計画的に教育活動を進めていることが、報告及び保護者のアンケート結果から伺える。

昨今、ゲームをはじめとして家の中で楽しめる遊びが多いことや、小学校以降になると放課後に塾の利用が増えることで戸外遊びの時間が減少し、体力低下につながっている。幼児期に体を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わわせることが、児童期以降により影響を与えられると考えるため、引き続き幼稚園での取り組みに期待する。

2 今後の改善に向けた意見

重点目標と全体の評価ともに評価が高く、教育活動の成果が感じられる。一方、教員アンケートにおいて、肯定的評価の選択肢が2つある中で低い方を選ぶ教員が多い。保護者アンケートの結果を見ると充実した教育活動を展開していることが理解できるため、教員自身がより自信をもった評価を付けることを望む。

一方で、少数ではあるが否定的評価を選択した項目については、数年前のものを併せて見ることで、より適切な改善策が見いだせるのではないかと考える。

幼稚園の教育活動について、これまで以上に発信にその充実した内容をアピールすることを望む。

3 その他の意見

これまで幼稚園が培ってきた保護者との連携や協力体制を大切にしつつ、次年度から預かり保育の時間が延長されることを踏まえて、それらの啓蒙や見直しをするとよいのではないかと考える。